

令和7年度 浜松市教育研究会園長研究部構想

浜松市教育研究会基本テーマ	愛情と情熱を持って学び続け 未来を拓き 生き抜く力を育てよう
目指す教師像	○ キャリアステージでの専門性と指導力を追求する教職員 ○ 愛情と情熱を持って自ら学び続ける教職員

幼稚園教育の基本理念	幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。(学校教育法 第二十二条)
社会的背景	○少子化・核家族化、人口の地域格差、情報の氾濫とネット社会による人間関係の希薄化 ・集団で遊ぶ機会や体験の減少 ・自然環境や戸外遊び場の減少による室内遊びの増加 ○ライフスタイルの変化や地域性等に配慮した多様な保育ニーズ ○個別の支援が必要な子や浜松市内に居住する外国人の増加 ○自然災害や感染症等、安全面に対する危機管理体制強化の必要性 ○全国的な保育士不足や教員の働き方改革等による就労環境の見直し
現状の子供の	○生活形態や様式・食生活の変化による幼児の心身発達の乱れや変化 ・基本的な生活習慣の不定着、運動能力の低下、ゲームやスマホ視聴等の増加による視力低下 ・自然体験の不足、非認知能力の低下(忍耐力・自己抑制・自尊心) ・言語発達とコミュニケーション力の未熟化 ・愛着の形成不足による情緒不安定と学ぶ意欲の低下

幼稚園教育要領のポイント	第4次浜松市教育総合計画
1 幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化 (1) 「知識及び技能の基礎」 (2) 「思考力・判断力・表現力等の基礎」 (3) 「学びに向かう力、人間性等」 ※これらは遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育てていくことが重要	<教育理念> 描く夢や未来の実現 ----- <目指すこどもの姿> ・自分らしさを大切にすることも ・他者と協働し、主体的に行動できるこども ・自己調整しながら、粘り強く取り組むこども
2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化と幼小接続の推進 3 幼児一人一人の良さや可能性を把握する等、幼児理解に基づいた評価の実施 4 育みたい資質・能力の実現に向けた園全体でのカリキュラム・マネジメントの実施 5 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保育改善の推進 6 特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実 7 教育課程外の教育活動と子育て支援の充実	<方針Ⅰ> 自分や浜松の未来を創る人づくり <方針Ⅱ> 安全・安心で魅力ある環境づくり <方針Ⅲ> こどもの学びや育ちを支える連携・協働

令和7年度浜松市立幼稚園教育課程編成・実施の指針

各幼稚園は基本方針に基づき、「はままつの教育」が目指す教育の趣旨が反映された自園ならではの教育課程を編成し、本市及び自園の教育目標達成を目指して、組織的、計画的に教育活動を進める。

<教育課程編成の視点>

- カリキュラム・マネジメントの充実
- 教育目標の明確化 教育課程編成の方針を家庭や地域と共有
- 幼稚園生活が安全なものとなるよう環境の配慮や指導の工夫
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有 小学校教育との円滑な接続
- 教育課程を中心に全体的な計画を作成

課題	○ 幼稚園教育要領を踏まえ、「10の姿」や「幼児期に育てたい力」を活用した質の高い教育の推進 ○ こどもの学びをつなげる幼児期の教育と小学校教育との接続の強化 ○ 一人一人のこどものニーズに応じた様々な支援、他機関との連携 ○ 災害や感染症等に対応した安心・安全な幼稚園づくり(危機管理) ○ 少人数園における保育・園経営の在り方 ○ 教職員の資質・専門性の向上につながる職員指導や園内研修の充実、ミドルリーダーの育成 ○ 地域性に配慮した満3歳児保育の実施
----	---

研究テーマ	生きる力を育てる幼児教育の創造 ～園長としての資質向上を目指して～
内容	変化する社会のニーズに対応した創意工夫ある園経営と次の時代を担う職員を育てる園長のリーダーシップ
視点	1 「幼保小の架け橋プログラム」の理解推進と幼小接続の工夫 2 つながりのある発達支援教育の推進 3 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上 4 職員の育成と資質向上につながる園経営の在り方 5 満3歳児保育の在り方 6 主体的・対話的で深い学びの実現

1 研究テーマの受け止め

今年度は、第3次浜松市教育総合計画の理念を継承しながら、第4次浜松市教育総合計画が始まる。幼稚園教育要領においては実施され8年目となり、浜松市として打ち出された「幼児期に育てたい力」も改訂されて6年が経過した。今、園に課せられているものは、生きる力の基礎となる資質・能力を確実に育む質の高い幼児教育の提供、家庭や地域に向けた幼児教育の発信、全職員の協力体制の下、組織的かつ計画的に教育活動を推進する力である。更に近年の家庭環境におけるライフスタイルや子育てに対する価値観の変化により、多様な保育ニーズが求められる中、浜松市立幼稚園への就園率の減少が続く状況ではあるが、浜松市立幼稚園ならではの良さを活かした教育の在り方を模索しながら、質の高い幼児教育を目指した様々な実態に即応した創意工夫ある園経営が求められている。

そこで本研究部では、園長自らが専門性を高めリーダーとしての力を発揮しながら、次の時代を担う職員の育成に努めていけるよう、研究内容を次のように設定した。

2 研究内容

「変化する社会のニーズに対応した創意工夫ある園経営と次の時代を担う職員を育てる園長のリーダーシップ」

視点1 「幼保小の架け橋プログラム」の理解推進と幼小接続の工夫

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「幼児期に育てたい力」をこどもの姿から捉え話し合うことができる職員の育成と共に、幼児教育と小学校教育との学びの連続性を円滑につなげるための工夫や連携の在り方、浜松市版「つながる」カリキュラムの活用について探りながら、幼小の円滑な接続を目指す。

視点2 つながりのある発達支援教育の推進

支援が必要なこどもの育ちや特性を的確に捉え、ニーズに応じた園内の指導支援体制を構築し、職員の育成を図る。また、行政や小学校との連携、保護者支援の工夫等を、組織的・有効的に取り組んでいく。

視点3 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

事故や感染症、災害等からこどもたちの命を守り、安全・安心な環境整備やこどもへの関わりに務めたりし、予防に対する意識の向上や対応能力を組織的に高めていく。

視点4 職員の育成と資質向上につながる園経営の在り方

幼稚園教諭として、幼児教育において育みたい資質・能力を正しく理解し、こどもの育ちを見取り、発達に応じた育ちを支える力を向上させると共に、やる気と情熱をもった職員の育成を目指す。

視点5 満3歳児保育の在り方

満3歳児保育が試行的に中山間地域5園で始まる。運営上の課題や進捗状況を確認しながら、満3歳児保育について検討していく。

視点6 主体的・対話的で深い学びの実現

幼児教育における重要な学びとしての遊びは環境の中で様々な形態で行われている。幼稚園教育要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」が実現できているかという視点から、指導の改善を図り園生活の充実を目指す。

3 研究方法

- ・6つの視点から研究内容を掘り下げ、研究を推進する。
- ・研究したい視点と内容についてアンケートを実施し、希望を考慮した上でのグループ編成を行う。
- ・グループ研修では、視点の意図を共通理解して研究内容を深め、研究テーマに迫る協議をする。
- ・研修推進については、グループリーダーを中心に行い、3回の研修の充実を図る。
- ・報告については、各グループのから出た報告を取りまとめ、HPに掲載し互いの情報交換を行う。
- ・研究の深まりや課題解決、見聞を深めるために講師を招聘し、指導・助言を受ける。

4 研究計画

回	日時	内容	会場
1	5月20日(火)15:00～16:30	○ グループ研修 ○ 視点ごとの情報の共有	浜松市教育会館
2	7月25日(金)9:15～12:00	○ 講演 「職員の育成と資質向上につながる園経営」 講師 鈴木 英司(秋野不矩美術館長)	浜松市教育会館
3	11月6日(木)15:00～16:30	○ グループ研修 ○ 視点ごとの情報の共有 ○ 今年度の評価及び次年度への展望	浜松市教育会館